

令和三年度 中学生の「税についての作文」入選作品

【茂原税務署長賞】

生活に寄りそう税金

長南町立長南中学校 一学年 高橋 慶多

何かを買うと消費税がかかる。中学生の僕には税金に対する意識とはその程度だ。両親の会話の中に「自動車税払わなきゃ。」とか「固定資産税の月だね。」などと「税」というキーワードを耳にすることがある。税金って消費税の他にもあるのかと思いつ税金について調べてみることにした。まず父に聞いてみると、働いて給料を支給される中から、所得税や住民税といった税金が引かれること、ゴルフ場でプレイするとゴルフ場利用税がかかることなど、様々な税金があることを教えてくれた。税金は国民が健康で豊かに生活していくために必要なものだということだ。

僕の住んでいる町は人口約七千六百人の小さな町だ。年少人口割合は七・四パーセント、県内で四番目に少ない。こうした理由もあり、町内にあった四つの小学校が統合し、新たに小学校が新設された。校舎は中学校の敷地内に建てられ、その建設費や設備、教材は全て税金によるものだ。通学している道路や信号機、勉強のために利用する図書館などの公共施設の整備や運営なども税金が使われている。続けて母に聞いてみると、僕の暮らす町では、中学三年生まで病院で診療を受けた場合、医療費を助成してくれる制度や子育て、児童育成のために支給される児童手当も税金のおかげでとても助かっているよと答えていた。その他にも生活する中で出る家庭ごみの収集やその後の処理もその一つだ。小学生の時に見学に行ったごみ処理場も税金で運営されていると知った。そこで見た巨大な焼却炉や冷却室、その他色々な管理、設備全て税金で成り立っていると思うと税金に対する考え方も変わってくるのを感じた。また、高齢化が進む日本において健康や医療を守ってくれるのも税金なのだ。過疎化が進み、高齢化率三七・六パーセントを占める僕の町では車の運転ができず、買い物や通院なども困難なため、巡回バスを運行し、手助けをしている。このようにして国民の暮らしを支え、助けてくれていることがよく分かった。税金について何も知らなかったが、納められた税金がどのように使われ、どのような役割を果たしているのかが分かってきた。それに反して残念なこともある。テレビのニュースなどで税金を払わない人がいたり、制度を悪用して税金をだまし取る事件が起きたりすることもある。自分が一生懸命に働いて納めた税金が無駄になるのはとても悲しいことだ。

納税は憲法で定められた国民の義務だと社会の授業で教わった。正直、納税の意義をよく理解していなかったが、僕たち国民すべての人々が健康で豊かに暮らしていくことができる環境を作ってくれているのが税金の活用によるものだと思えていく中で理解することができた。税金の仕組みや大切さを実感し、生活を支えてくれる事に感謝していきたい。